

新年を迎えて
たより

「掬水まちづくり協議会」
会長 久瀬 幸

新年あけましておめでとう！
ございます。
旧年中、地域の皆様には協議
会行事について大変なご理解と
ご協力をいただき、心よりお礼
を申し上げ、本年も何卒宜しく
お願い申し上げます。
さて、昨年暮れ2008年締め
くくりの言葉として「変」が選ば
れ、政治、経済、自然災害それ
に、雇用、食品、年金などの社
会問題でも、いろんな変化が日
本中で起こりました。仕事や住
む家を失った多くの人やそれを
助けようとする地域ボランティア
の活動が連日のように放映され
ていました。ひよとすると、我々
の身近でも起こりうる激変の社会
の状況です。

ところで、協議会で
は発足以来、地域の
人々の心のつながりを
大切に考えやってきました
。都会のようにボラン
ティアの活動のないこの
地域では心のつながり
なくして人は動こうとしないし、
心の底から助け合うこともでき
にくいからです。
幸いにも、「夏まつり」や「ク
リーン作戦」では、多くの方が集
い、地域での交流を深めることが
できました。

このようにまちづくり協議会の
行事が年々盛んになったのは、協
議会も三年目を迎え、皆が行事
をよく理解し、関心をもつようにな
ったこと、地域の皆様のご協
力のおかげと感謝しています。

最近、協議会や地域の自治会組
織の活動に大きな変化が見られ
るようになりました。
その一つは、協議会の部会等が
組織的に良く動き始めたこと
です。

夏まつり実行委員会では、宇佐
美さんを中心として八人の実行委
員の方々が本場に時間を掛けてよ
く話し合い、動いていただいたこと
と、それに各字の皆さんが良く協
力していただいたことです。見事に
今までの盆踊りを一変して、すば
らしいものにしていただきました。

また、掬水自主防犯パトロール
隊は、隊員に参加する方も増え、
三日に一度の割で地域の防犯活動
を積極的に実施していただき、地
域の安全・安心に大きく貢献して
います。

クリーン作戦でもしかりです。
森坂さんを中心とし産業振興部
の皆さんが、部会を開き、話し合
いました。当日の仕事を分担し、
組織的によく動いていただいたこと
です。参加者が予想外の四百人に
到達し、大成功を収めたこともご
承知の通りです。

この他、二つの高齢者問題、環
境問題のプロジェクトチームの皆さ
んには、今も地域を自主的に回り、
活躍をいただいています。

二つは、自治会長さんを中心と
して町内会長さん、組長さんたち
が連携をし、地域が自治組織とし
て機能するようになってきたこと
です。

今、掬水校区のこの地域で最
も感心を集めたのは、八月の「掬
水夏まつり」の成功です。その中
でも決定付けたのは九つの自治会に
よる夜店です。みんながどうして
よいか分からず大変な中、どの地
区もよく動いていただきました。そ
れは、自治会長さんを中心として、
町内会長さん、組長さんたちが各
町の皆さんと共に協力をして一丸
となったことです。まさに自治会
が機能してきたのです。

また、年の暮れに実施しまし
た住民意識調査では、平均回収
率が九〇%を超える大変高いも
のでした。これは自治会長さん
を中心として自治組織が上から
下へ、下から上へとうまく機能
した証だと思えます。自治会長
さんだけではできないことです。
まだまだ数え上げれば切りが
ありません。この他、多くの行
事に裏方さんとして貢献した
「調理ボランティア」「はつらつ
クラブ」の皆さんの活躍もなく
てはならない大きなものがあり
ます。

《お知らせ》
環境問題プロジェクトより
「できることから運動」の各地区の進
み具合をつかみたく、2月上旬に一
斉にプロジェクトメンバーが調査いた
します。よろしく願います。
ふれあいウォーキングの実施
・1月25日(日)
8時30分より受付、9時出発
安楽天神集合
※当日はアツアツの豚汁を用意。

以上のような活動はどれもこ
れも地域のつながりを確かにす
る協議会や自治会の大きな変化
です。
今、私たち地域には「自分たち
でできることは自分たちの手で」
を合言葉に活性化が求められて
います。「掬水まちづくり協議
会」はまだまだ未熟な組織です。

これからも地域の皆さんの温か
いご理解とご協力、それに指
導をお願いします。

原点を見つめて
掬水地区交通安全協会
支部長 鈴木則男

新年おめでとうございませう。
地域の皆様それぞれ希望に満ち
たお年を迎えられた事とお慶び
申しあげます。

さて、私ども掬水地区交通安
全協会（指導員三十二名）は去
る十二月二五日に松阪警察署長
より感謝状をいただいております。
また、これ一重に地域の皆様
のご協力とご理解の賜と厚く御
礼申し上げます。

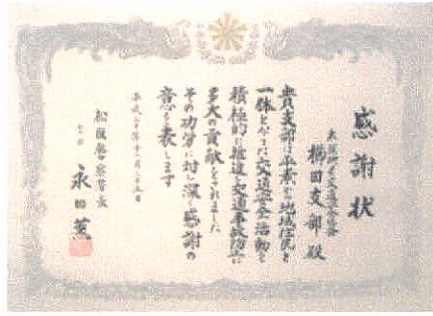
昨年未より「不況」という淋
しい言葉があちこちで聞かれる
ようになりました。でも年末の
お買い物の人出はどんなだった
でしょうか。しかも皆さんそれ
ぞれ一人一台の自家用車でお越
しの方がほとんどだったと思っ
ます。

一昔前を思い起こしてみませ
んか、自転車か手押し車で挨拶
を交わしながらのお買物でした
ネ。年をとると人に人のモラ
ルの低下が目立ち人身事故が増
えて来たと感じるのは私だけで
しょうか。今ここで人を思いや
る心、ゆずり合う気持ち、助け
合いの精神を思いおこしてみま

せんか。

昔なら自転車同士、人と人がぶつかっても死亡した話はなかったように思います。時代が変れば人も変わるでしょう。

しかし、思いやり、ゆずり合い、助け合いはいつの世でも必須条件でしょう。お互いが注意を怠らず人も車も何時、何処で、どんな危害に遭遇するかも知れません。そんな心掛けを持ち続けなければ不幸な事故は防げるものと確信いたします。どうか櫛田地区の皆さん、私達の地区からは交通事故等のないよう心がけましょう。



自治会たより(櫛田町)
「しだれ梅の里」に
梅を見に来て!

櫛田地区内(櫛田、清水、菅

生)の至る所に「SHKクラブ」。

「精魂の郷」の看板が掲示されています。これは、平成十八年四月圃場整備に対する事業の一端として全国六百ヶ所、県下七ヶ所の内松阪管内三ヶ所(立梅・明和・櫛田)が本事業のモデル地区として推薦され、平成十九年四月より五カ年を目的に国庫補助事業「農地・水・環境保全向上対策」の正式採択を契機に、「精魂の郷」の「S」・保全の「H」・管理の「K」の頭文字を取りSHKクラブと称し櫛田、清水、菅生の協同組織として発足し、地域住民はもとより近隣の住民の皆様にも環境への取り組みを行っている啓蒙活動の一環として掲示をしています。



しだれ梅の里

「精魂の郷」記念碑は、櫛田土地改良区圃場整備竣工に建立されたものであります。櫛田町では竣工数年前より圃場整備

完了後の環境整備・保全に取り組む必要性を感じ、自治会の行事であった年二回の幹線水路清掃を、櫛田環境整備委員会を立ち上げ行事の移譲を行い、三月に水路内の土石清掃、幹線水路及び隣接する市道の土手等の除草作業を六月から十月に三回を農地所有者全員の参画で実施と、櫛田青壮年部が自主活動として、年一回水路・道路の隣接する農地に捨てられた空き缶・空き瓶等拾いを二十数年間継続し地域の環境整備に貢献してきた現状から、SHKクラブの活動へと継承を行いつつあります。

各地区の活動として清水地区は平戸つつじを水路の土手等に植栽を進め、菅生地区はサツキを都計道路の路肩に植栽と、三地区三様の鋭意努力し現在に至っています。中でも櫛田町は貯水槽の空き地へ芝桜を植栽し老人会の女性の皆様に除草管理をお願いし、平成十九年十二月「しだれ梅の里」と称し、しだれ梅を圃場整備事業で集約した大字所有地に五十七本、平成二十年十二月には櫛田神社境内に十九本を関係者全員の協力のもと植栽しました。次年度以降もしだれ梅の植栽を進め、時節には観賞出来る施設を設け若男女憩いの場所の提供を計り、各種諸団体は基より地域ぐるみの心使

いでこの環境保全向上対策を優秀の美で完了できるように三地区協同一体化で取り組んでまいります。

☆ おわび申しあげます
前回、渋谷秀昭さんの町名は山添町でした。訂正しお詫び申しあげます。

知って得る昔の話
シリーズ その八
山添町 神山神社

この神社は山添町宇宮前にあります。正式には「飯野高宮神山神社」と言い、俗に神山明神(みょうじん)、山添大明神、または白髭(ひげ)大明神などと呼ばれています。ここには、猿田彦命(さるたひこのみこと)と天鈿女命(あめのうずめのみこと)とを祀(まつ)つてあります。

「倭姫命(やまとひめみこと)世記」によりますと、このお宮は、約二千年前の垂仁天皇二十二年、倭姫命が天照大神を日本で最も良いところにお祭りしようとして、日本各地をめぐり、途中、この地(山添)において、四ヶ年間お祭りをしたという由緒ある飯野高宮としての経緯があります。その後、五十鈴川川上の



神山神社

皇大神宮(今の内宮)にお移されたとあります。
猿田彦命は、私たち全てを善い方に導き、見守ってくださる神様です。またもうひとつの天鈿女命は、神話にある天の岩戸の前で舞をしたという芸能の神様です。

当社の合祀の歴史は、明治四十年に山添の三玉神社を、明治四十一年には安楽の須賀神社ほか二十二社を合祀しました。また、分祀は昭和八年に櫛田神社、戦後、山下に宇気比神社、伊賀町に須賀神社、豊原に豊原神社と、六字二十一社に行いました。
伊賀町 三宅 忠行

今回の神山神社については、神山神社の宮司である豊原町、吉村斉さんより資料の提供をお受けしました。